

ふじみフレンドシップキャンプ

報 告 書

国立赤城青少年交流の家では、教育事業「ふじみフレンドシップキャンプ」を6月と11月の2回開催しました。交流の家のある富士見地区では、4つの小学校が1つの中学校に進学します。そこに住む小学生（学校数4校）を対象とした、仲間づくりがテーマのキャンプを実施しました。同じ中学校に進学する子どもたちが早い時期から顔見知りになれることをめざし、2回の参加者は合計68名でした。

【第1回目 平成27年6月20日（土）～21（日）】

第1回目のキャンプは、富士見地区子ども会育成会連合会と国立赤城青少年交流の家の共同主催で実施し、参加者は小学校4～6年生59名で交流の家で実施しました。このキャンプは、各単位子ども会との交流とリーダーの育成を目的として実施されました。

1日目は、レクレーションやテント設営、カレーづくりをしました。夜はテントで、雨や風の音、鹿の鳴き声を聞きながらみんなで寝ました。キャンプリーダーは、富士見VYS（ボランティア）の高校生、大学生が担当しました。はじめは、同じ小学校同士で行動していましたが、活動を通しお互いにコミュニケーションを取るようになり、上級生が下級生の面倒をよく見るようになりました。



「アイスブレイク」班のなかまやVYSのリーダーと仲良くなりました。



「ネイチャーゲーム」自然の中から宝物を探しました。



「野外炊事」班で話し合い係を分担し、カレーをつくりしました。どの班のカレーもとてもおいしくできました。



2日目は、アウトドア朝食を食べスタートしました。昨日の野外炊事の経験を活かし短時間で準備と後片付けを行う事ができました。メインのプログラムはアドベンチャーラリーです。敷地内のオリエンテーリングコースを回りながら、それぞれの場所に出される指令やゲームをクリアしながらポイントを沢山ためてゴールします。最後に閉校式を行い1人1人に修了証が渡されました。



「朝食」雨上がりの澄んだ空気と一緒に食べる朝食は最高でした。



「アドベンチャーラリー」課題の人間知恵の輪に挑戦。上手く解けるかな？



集合写真を見ながら班でふり返りをした。友だちが沢山できました。



閉校式ではキャンプの終了証が手渡されました。

【第2回目 平成27年11月27日（金）～29（日）】

第2回目のキャンプは、まるごと富士見体験をテーマに、鍋割山登山、お切り込みうどんづくり、時沢大根の収穫体験、富士見カルタハイクを企画しました。子どもたちが「地域の中で生活している」という実感を持つことが重要だと考えました。

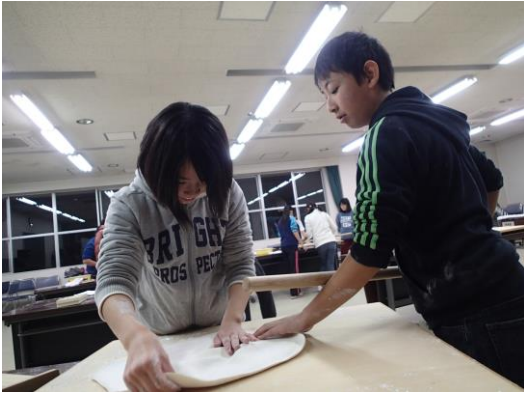
1日目の鍋割山登山は、交流の家から山頂を目指しました。途中急な岩場がありみんなで励まし合いながら、全行程6時間の登山を全員が登り切ることができました。天気にも恵まれ山頂から自分たちの住む町を見渡す事ができました。



目指すは、鍋割山山頂！



鍋割山山頂からの眺めは最高！



「お切り込みうどんづくり」



たき火を囲んでふりかえり

2日目は、時沢大根の収穫体験をしました。時沢大根は、富士見の時沢地区で古くから栽培している固有種で有り、地元の有志がその復活栽培プロジェクトを行っています。ちょうど収穫時期であり、子どもたちに沢山収穫をしてもらいました。次に、富士見かるたハイクを行い、施設内に隠されたかるたの絵札を地図を頼りに探しました。富士見かるたはこの地域に古くから伝わるかるたで、群馬で有名な上毛かるたよりも盛んに行われています。



「時沢大根の収穫体験」



沢山収穫して、プロジェクトの方にも喜んでいただきました。



たくあん漬けにも挑戦しました。



「富士見かるたハイク」作戦タイム

子どもたちの感想として、「野外炊事がみんなと協力してできたし、とてもおいしかった。」「他の小学校の人がとても優しく、色々話してくれてうれしかった。」「大根の収穫で他の学校の子と一緒に大根を抜くことができた。」「自分の学校だけではできない、自分から話しかけてみて、友だちになることができた。（中略）中学生になったら自分から話しかけ友だちを沢山つくりたい。」の感想がありました。

このキャンプでは、多くの大人たちがサポートに加わってくれ、子どもたちの活動に目を細めていました。お互いの活動が、地域を元気にし、子どもたちにも地元の誇りを実感させてくれる機会となりました。

（文責：新井）